

父島列島におけるクロアシアホウドリ

*Diomedea nigripes*の繁殖記録

福 寿 兼 央 (東京都自然保護員)
坂 下 智 宏 (東京都小笠原支庁土木課)
堀 越 和 夫 (NPO小笠原自然文化研究所)
千 葉 勇 人 (NPO小笠原自然文化研究所)

要 約

父島列島最北端の孫島 (27°11'46"N、142°11'43"E) において、2010年5月6日にクロアシアホウドリ *Diomedea nigripes* のヒナ4羽を観察し、同種の戦後初めての父島列島における繁殖を確認した。

I. はじめに

クロアシアホウドリは、北太平洋上に広く分布し、メキシコ沖サンベネディクト島、ハワイ諸島及び日本周辺の離島 (小笠原諸島聳島列島、伊豆諸島鳥島、尖閣諸島) で繁殖するアホウドリ科の海鳥である (小城、1998; Pitman & Balance, 2002)。小笠原諸島では戦前に北之島、聳島、聳島の鳥島、針之岩、媒島、媒島の鳥島、嫁島、兄島、母島、姉島、西之島、硫黄島、南硫黄島において繁殖していた (靱山、1930; 山階、1930; 清棲、1978) と考えられるが、現在は聳島列島のうち中ノ島、聳島、聳島の鳥島、眼鏡岩、媒島、媒島の鳥島、嫁島及び、母島列島のうち姉島の南鳥島と妹島の鳥島で繁殖することが知られている (Chiba *et al.*, 2007)。

戦後、これまで記録がなかった父島列島においてクロアシアホウドリの繁殖を確認したので報告する。

II. 繁殖の確認

アホウドリ類の調査は、東京都小笠原支庁とNPO小笠原自然文化研究所の協働事業「海鳥繁殖状況調査」として実施され、2009/2010の繁殖シーズンは都レンジャーによる弟島からの遠望で、孫島にクロアシアホウドリのヒナと思われる個体が観察されたことか



図1 西方向から見た孫島

ら2010年5月6日に上陸調査が行われた(図1)。

8:30に父島を出港し、9:25に上陸した。孫島は面積0.16 km²、標高134 mであるが、海岸部は海食崖となっている。登攀ルートは限られているが、西側は途中から緩斜面となり、また頂部は比較的平坦な面があり、弟島から遠望された草地を中心に4人で踏査した。その結果、最頂部より一段低い平坦面に1羽のヒナを確認した(図2)。また、破卵1個が見つかった(図3)。そして最頂部の平坦面では3羽のヒナを確認することができた(図4、図5、図6)。営巣場所は2巣がタコノキ *Pandanus boninensis* とハマゴウ *Vitex rotundifolia* にそれぞれ接してあり、3巣は草地に作られていた。11:30 頂部での調査を終了して下山を開始し、11:50 海岸に戻り調査を終了した。本シーズンは少なくとも5番が、孫島を繁殖地として利用したことが明らかとなった。



図2 最頂部一段下平坦面のクロアジアホウドリのヒナ



図3 一段下平坦面の巢内にあった卵殻の破片



図4 最頂部のヒナ その1
(タコノキの下で休んでいた。巢もタコノキに隣接してあった)



図5 最頂部のヒナ その2
(ハマゴウに隣接した巢上で休んでいた)



図6 最頂部のヒナ その3
(植生がなくなる崖際で休んでいた)

なお、確認した4羽のヒナには環境省の鳥類標識用金属リングと学術研究用のカラーリングを装着した。環境省リングは 13C1760、13C4370、13C4496、13C4497で、対応するカラーリングは順に、黒地に白文字のC01、C02、C03、C04である。

Ⅲ. 以前の状況及びこれから

孫島周辺でのクロアシアホウドリの目撃情報は1990年代からあり、千葉は1993年4月19日に上陸調査したが、繁殖は確認できなかった(千葉、1993)。その後しばらく調査はなされることがなかったが、遊漁船関係者や都レンジャーらによる目撃情報が多く寄せられたことから2008年5月26日に、今回と同様に協働事業として実施された。堀越と千葉が上陸調査し、成鳥と思われる2羽の死体を確認したが、ヒナや巢の跡は確認できなかった。1

羽の死体には環境省リングが着いており、標識番号から聳島の鳥島で1997年に巣立ちした個体であることが判明している。この年はオオワシ *Haliaeetus pelagicus* 1羽の飛来が確認されており（小笠原自然文化研究所、2008）、捕食された可能性が考えられた。

母島列島では2002年3月21日に戦後の繁殖が確認（千葉、観察）されたが、その後は継続して利用されている。2010年12月20日には新たに二子島で抱卵している個体が2巣で確認された（川上和人、私信）。孫島でも4番が繁殖に成功したと考えられることから今後も継続して繁殖地として利用されると思われる。また、父島を除きノヤギ *Capra aegagrus* が駆除されたことにより、他の島にも分布が拡大する可能性がある。

現在、聳島ではアホウドリ *Diomedea albatrus* の繁殖地形成のため伊豆諸島鳥島からヒナを移送し、人工飼育が実施されている。クロアシアホウドリの繁殖地はアホウドリを誘引する可能性があり、将来父島近海でも観察される機会が増加することを期待したい。

謝辞

本報告を書くにあたり、森林総合研究所の川上和人氏には情報を提供していただいた。また、原稿を読んでいただき助言をいただいた。都レンジャーの島田律子氏には弟島からの観察に際し協力をいただいた。厚く御礼申し上げます。

文 献

- 千葉勇人（1993）孫島に上陸.ボニン博物通信. 20: 2-3.
- Chiba H, Kawakami K, Suzuki H & Horikoshi K. (2007) The distribution of seabirds in the Bonin Islands, southern Japan. *Journal of the Yamashina Institute for Ornithology* 39: 1-17.
- 清棲幸保（1978）『日本鳥類大図鑑Ⅲ』講談社、431p.
- 初山徳太郎（1930）小笠原諸島竝に硫黄列島産の鳥類に就て. 日本生物地理学会会報 3: 89-186.
- 小笠原自然文化研究所（2008）Bonin Bird Club. 季刊誌i-Bo（アイボ） 19: 10.
- 小城春雄（1998）クロアシアホウドリ. 日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（V）. 日本水産資源保護協会、63-68.
- Pitman RL & Balance LT (2002) The changing status of marine bird breeding at San Benedicto Island, Mexico. *Wilson-Bulletin* 22: 11-19.
- 山階芳麿（1930）聳島列島の鳥類. 鳥 6 : 323-340.